【編集後記】

フランス革命以前は、斬首刑が科されるのは特権階級だけで、庶民には車刑（車輪を手足に打ち下ろして骨を砕き、死に至らしめる刑罰）や火刑など、想像を絶する苦痛に満ちた殺害方法がとられていた。革命のさなか、刑罰における「自由・平等・友愛」を実現する革新的刑具「ギロチン」が考案された。上から落とした台形の刃で、いかなる身分にかかわらず「平等に」死刑囚の頸部を一瞬にして切断し、瞬時にかつ無駄な苦痛を与えることのない「人道的」な処刑方法。

最初の公開処刑は、一七九二年四月二五日午後三時のことだった。その後しばらくは、パリでギロチンの形をしたイヤリングや玩具が流行ったというから、この時の処刑ほど民衆に強烈な恐怖を与えたものはなかったであろう。権力の恐怖をブラックユーモアで笑い飛ばすのは、いつの時代にも共通の民衆の知恵であった。

台形の刃は一九七六年まで死刑囚の首を切断し続けた。ギロチンが博物館に収められたのは、一九八一年、当時のミッテラン大統領が世論の反対を押し切って死刑廃止に踏み切ったときだから、ギロチンの刃を研ぐ必要がなくなってからまだ四〇年も経っていないのである。

（園田寿）

甲南法務研究（KONAN LAW FORUM）第 13 号

2017 年 3 月　初版第一刷発行

発　行　甲南大学法科大学院
兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1
TEL 078-435-2603　FAX 078-435-2760
URL：http://www.konan-u.ac.jp/lawschool/
E-mail：lawschool@adm.konan-u.ac.jp

制　作　株式会社ＴＫＣ
東京都新宿区揚場町 2 番 1 号　軽子坂 MN ビル 4 階
TEL 03-3235-5639　FAX 03-3235-5649

印　刷　倉敷印刷株式会社
東京都墨田区錦糸 4-16-17
TEL 03-6658-0031　FAX 03-6658-0032